

植木さんの突然の訃報には「えっ？」と驚いたまま、しばらく声も出せない状態に落ち込んでしまいました。彼との会話の記憶が走馬灯のように次々と頭をめぐる状態をなかなか抜け出せませんでした。何故なら持病（リンパ腫）持ちは僕の方で、彼は会う度に僕の健康に気を使ってくれていましたし、とても明晰な明るい声で会話を返してくれていましたので、突然の別れが来るなどは夢にも思っていませんでした。

植木さんとは教育学部附属高校で同窓ですが、クラスも異なりましたので特段の交友関係はありませんでした。大学は植木さんが京都大学の理学部・物理に進学したことや以後の動向は彼の高校級友（その植木さんの級友は広島大学理学部・物理で僕と級友）から聞いていました。しかし大学院で植木さんが広島大学の文学部に帰ってきたのには驚きましたし、物理から離れたのには少々残念に思いました。

私はそのまま広島大学大学院理学研究科に進学し、幸運にもその研究室のスタッフとして残りましたが、活動の大部分が他大学や外国との共同研究で、広島を留守にすることも多く、また主たる関心が広島大学の外に向いていたので、晩年まで植木さんとの親しい交流はありませんでした。ただ晩年、定年前に広島大学に天文台を作る活動・努力をしていた時には、文学部の重鎮として大学中心部にいた植木さんには陰に陽にサポートしていただいているなど感じていました。

「マスターズ広島」と「平和と人間 C, D」に関しては、理学部定年後に、特任教授として宇宙科学センター・東広島天文台の活動を続けている時に、植木さんより連絡が入り、話があると僕のオフィスにやって来ました。広島大学で定年を迎えた人々の活動組織としての「マスターズ広島」、平和教育のプランである「平和と人間 C, D」への意義を説明、強調し、参加を促されました。僕は普段被爆者の顔はしていませんでしたが、広島生まれの広島育ちの被爆者で、植木さんとの違いは、全く幸運にも目に見えて後遺症の残る健康被害を受けていなかった事です。しかし祖父や複数の叔母、叔父達も深刻な被害や影響を受け、被曝は思い出したくも話したくもない話題でした。

植木さんは僕が被爆者の一人である事を知っていて平和教育に誘った様に感じました。ただ、平和教育の目的や意義・必要性は良く分かるし、また物理分野で追求した研究が高エネルギー放射線を扱う実験分野であった僕は、放射能・放射線に対するいわれのない怖さや偏見を克服できたので、福島原発事故後に黒い空気の様に広がり、いじめに等しい噂や間違った警告・忠告、行動等を見聞きし、平和教育の中で放射能・放射線の正しい知識と取り扱い等は平和達成に必ず必要だと思い、「平和と人間 C, D」に参加と、「平和と人間 C, D」のそれぞれで2コマの授業を担当することを承諾しました。数年後には植木さんに請われて C, D の主担当を引き受けましたが、一昨年、僕にかなり深刻な病巣が見つかったため（現在は放射線治療により表面上は回復）、昨年からは C は圓山さんに、D は植木さんをお願いして主担当を替っていただきました。D は新たに植村さんをお願いすることになりました。

植木さんの自宅は、僕が車で帰る途中で、しかも僕が育った実家があった西広島己斐上のすぐ近くだったので、マスターズ広島の会合があった時の帰りは、僕の車に同乗して色々な話題に話の花を咲かせ、勝手に知った道をたどり送り届けるのがいつもの習慣でした。

植木さんの突然の訃報を聞いたときはびっくりして落ち込みましたが、かねがね最後はピンピンコロリで終わるのが理想と思っていましたので、今はそれなりに良かったのではないかなと自分を納得させています。植木さん、また明るい声で色々な話題で話したいね！